

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立稲葉特別支援学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		○児童生徒一人ひとりの能力や特性に応じた教育活動を推進し、可能性を伸ばし、社会参加と自立に必要な力を育成する。
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	○自他の心身や命を大切にし、社会の一員として明るく豊かに生活するために必要な知識・技能・体力を身につける。 ○多様な経験や成功体験を通して自己肯定感を高め、何事にも挑戦しようとする気持ちを形成する。 ○自発的な活動や仲間と共に考え協力する姿を大切にし、地域の中で主体的に生きていく力を育む。
	ありたい教職員の姿	○児童生徒への深い愛情と確かな人権感覚をもち、率先して取り組む活力ある教員。 ○専門性の向上と自己研鑽に努め、仲間と新しい教育実践に挑戦する教員。 ○組織の課題を発見し、新たな伝統・システム作りに取り組む創造性のある教員。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈児童生徒・保護者〉 ○安心・安全な学習環境をベースとした、保護者との連携・相談体制の充実 ○将来の社会参加に向けた生活指導・学習指導・キャリア教育	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈小中学校〉 ○特別支援学校のセンター的機能を充実 ○地域の学校との交流及び共同学習の継続した取り組み 〈地域〉 ○防災・安全対策について、地域及び近隣の施設や事業所とのさらなる連携 ○人権について、地域社会に向けた発信の強化	〈関係機関〉 ○特別な支援が必要な子どもたちへの支援体制の確立 ○交流及び共同学習や、卒業後を見据えた実習等の連携した取り組みの継続 〈地域〉 ○障がいと障がい者への理解、本校の学校教育への協力や児童生徒が活躍できる場の提供
(3)前年度の学校関係者評価など	○防災・安全対策はいのちにかかわる大切な事であり、指定避難場所までの避難経路や、災害備蓄品の数量について確認を行う等、細部まで考えてより一層充実した対策を講じた方がよい。また、地域及び近隣の施設や事業所との連携も強化していいとよい。 ○人権について、本校の児童生徒は問題の当事者であり、校内にとどまるのではなく、地域社会に向けて啓発するような取り組みを考えていかなければならない。 ○児童生徒の人生が豊かになるような進路指導やアドバイスをしてもらいたい。 ○地域にとって特別支援学校のセンター的機能の役割は重要であり、地域の学校との交流及び共同学習も継続して取り組んでほしい。	
(4)現状と課題	教育活動	○児童生徒のよりの確かな実態把握に基づき、個々の教育的ニーズに応じた個別の指導計画を作成し、授業内容や支援方法の検討を行い、実践に生かす。 ○校外学習や実習等の社会体験の機会を増やす等、社会性を養うことにつながるような活動を取り入れ、実践的なスキルを習得する機会を提供する。 ○あいさつやグループ活動を通じたコミュニケーション力の向上、また、リトミックや朝の運動等を継続的に実施し、体力の向上を促進する。 ○自立活動における ICT の活用を進め、障がい特性の補完につながるよう

		な授業を考えていく。
	学校運営等	<p>○教員の研修を一層充実させ、障がいの多様化に対応できるような授業力と支援に必要な知識、ICT 機器活用のスキルを向上させる。</p> <p>○地域の防災や安全に関する機関と連携し、幅広い視点からいのちを守るための取り組みを推進する。</p> <p>○関係機関との連携を強化し、校内支援体制をより充実させる。</p> <p>○センター的機能の持つ役割を適切に果たすと共に、交流及び共同学習の充実を図り、特別支援教育及び人権教育の両側面から地域に根差した学校を目指す。</p> <p>○各学部や各分掌で業務内容を再評価し効率化を図る。また、役割分担を明確化し、環境を整え、学校全体の組織力を高める。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>1 自分や周りの人の心や体、命を大切にすることを学び、社会の一員として楽しく幸せに生活するために必要な知識や技能、体力を身につける。</p> <p>2 様々な経験や成功したと感じられる体験を通して、自分に自信を持つ力を育て、どんなことにも挑戦する気持ちを作り出す。</p> <p>3 自分から進んで行動することや、仲間と一緒に考えて協力することを大切にし、地域の中で積極的に活躍できる力を育てる。</p>
学校運営等	<p>1 障がいの多様化、ICT 機器の活用を踏まえた教職員一人ひとりの専門性を向上させる。</p> <p>2 誰一人取り残さない教育の実現に向けたセンター的機能と安心・安全のための切れ目のない支援の充実に向けたネットワークを形成する。</p> <p>3 誰もが自信と誇りを持ち業務にあたることのできる「チーム稲葉」としての体制・組織づくりを進める。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 学習内容の充実	<p>○児童生徒についてより適切な実態把握を行うとともに、学習指導要領をもとに小・中・高の系統性を考えた各教科等の年間指導計画を作成し、個に応じた授業内容や支援方法を検討し実践する。</p> <p>(1) 児童生徒の実態把握と目標設定、教員間・保護者との共有、授業内容の検討と評価</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部、個別懇談会の実施 個別の指導計画を基にした、課題や目標、評価の確認 個別の教育支援計画の確認、見直し 各教科の年間学習指導計画内容検討会 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動・支援に満足している保護者の割合 80%以上 <p>○日常の授業に加え、校外学習等の社会体験活動、児童生徒会活動や卒業後を見据えた各種実習等の経験を通して、挨拶や他者との関わりを学びながら社会性を身に付け、学びの般化につなげるとともに、自分の意</p>	<p>教科会で年間指導計画を検討し、学習指導要領に基づき学部間の系統性を踏まえた指導内容の共有と確認を行った。また、各学部で懇談を実施し、個別の指導計画について保護者との共有も行った。</p> <p>・教育活動・支援に満足している保護者の割合 97% (保護者アンケートによる)</p> <p>全ての学部で年間2回以上の校外学習を行い、公共の場でのマナーを守りながら他者と関わる力を育てた。こうし</p>	◎
			◎

	<p>志や気持ちを的確に伝える力を養うための学習活動を行う。</p> <p>(1) 校外学習、現場実習等の体験学習 【活動指標】 ・校外学習 各学部2回以上 〈高〉・現場実習 高等部2年生 各学期1回 高等部3年生 1回以上</p> <p>(2) 全校集会等を通しての児童生徒会活動の充実 【活動指標】 ・全校集会の取り組み 各学期1回 ・運動会、学校祭での司会進行や挨拶</p> <p>(3) 食に関する指導、保健指導、健康相談 【活動指標】 ・食に関する授業 各学部1回以上 ・保健指導 各学部1回以上 ・個に応じた健康相談</p> <p>(4) 高等部生徒の進路希望の実現 【活動指標】 ・高等部2年生 進路説明会の実施 ・高等部3年生 進路懇談会、移行支援会議の実施</p> <p>【成果指標】 ・学校での学びで「達成感」を感じている児童生徒の割合 80%以上 ・高等部生徒の進路希望の実現 100%</p> <p>○体力向上につながる授業、ICTを活用した授業等により自立につながる力の向上を目指した取り組みを行う。</p> <p>(1) 体力向上に向けた活動 【活動指標】 〈小〉・からだタイム (リトミック) 〈中〉・朝の運動 〈高〉・持久走</p>	<p>た体験を通して、学んだことを実生活で生かした様子も連絡帳等で報告されている。</p> <p>高等部では、2年生が各学期1回、3年生が1回以上の現場実習に取り組み、基本的なコミュニケーションや働く姿勢を身に付けた。施設見学や就労に向けたセミナーを実施し、卒業後を見据えて準備を進めた。さらに、全学年で校内実習・卒業生による講話「ようこそ先輩」を実施し、進路選択に必要な経験を積み知識を深めた。</p> <p>また、全校集会を各学期1回行い、学部を越えた縦割り活動で他者との関わりを学ぶ機会を設けた。運動会や学校祭では児童生徒会役員が司会を務め、気持ちや意思を伝える経験を重ね、表現力や主体性の育成につながった。</p> <p>食に関する指導について、各学部で年間1回以上の食に関する授業を行い、食事のマナーやルール等、自立に向けた食の知識や技能を学んだ。保健指導も各学部で1回以上実施し、はみがき指導や個々に応じた性教育・健康相談を行い、健康に対する理解を深めた。</p> <p>・学校での学びで「達成感」を感じている児童生徒の割合 85% (児童生徒アンケートによる) ・高等部生徒の進路希望の実現 100%</p> <p>各学部で継続的に運動に取り組み、基礎体力の向上を図った。小学部では週3回以上のからだタイム、中学部では朝の運動を習慣化し、体力向上と共に生活リズムを整えた。高等部では毎日の持久走で記録を意識しながら体力・忍耐</p>
--	--	--

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体を動かすことが楽しい」と回答する児童生徒の割合 70%以上 <p>(2) 授業等各活動での ICT の活用</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 〈小〉・ICT 機器を活用した視覚支援 〈中〉・ICT 機器を活用できる機会を保障 <ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な操作の指導 〈高〉・一人一台情報端末を使った授業の実践 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を用いた授業を行った教員の割合 100% <p>(3) 個に応じた自立活動の設定</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムを用いた自立活動の目標設定を行った児童生徒 100% 	<p>力・集中力を養い、将来の就労にもつながる力を育てた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体を動かすことが楽しい」と回答する児童生徒 86% (児童生徒アンケートによる) <p>各学部で ICT を活用した学習を推進した。小学部では朝の会や帰りの会などの進行や事前学習に ICT を用い、中学部では興味・関心に応じた個別学習を進めた。高等部では各教科で一人一台端末を活用し、主体的に学ぶ力や ICT 活用能力を高めることができた。また、登校しづらい児童生徒の学習機会として活用することもできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を用いた授業を行った教員の割合 97% ・校務支援システムを用いた自立活動の目標設定を行った児童生徒 100%、自立活動の流れ図に沿って設定した割合 89% 	
<p>2 命を大切に する教育</p>	<p>○児童生徒一人ひとりの個性を尊重し、安心・安全な教育環境を構築する。</p> <p>(1) 命を大切にし、いじめを許さない態度を養う学習</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンクシャツデーの取り組み ・いじめアンケートの実施 ・いじめ早期発見のための気づきリストによる実態把握 ・生と性の学習の実施 <p>(2) 個別的な人権問題を解決するための学習</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の不安感や困り感の把握 ・他者を思いやる取り組みの実施 	<p>学期ごとに人権アンケートを実施し、人権意識の向上に取り組んだ。授業公開などを通して、気持ちや考え方の違いに気づき、不安や困り感の表し方を学ぶ姿が見られ、自己肯定感の向上にもつなげることができた。</p> <p>また、ピンクシャツデーの取り組みを行い、いじめについて考え、互いを思いやる姿勢を育む機会となった。さらに、いじめアンケートや気づきリストを定期的に実施し、小さな変化を早期に把握して必要な支援につなげた。</p> <p>加えて、生と性の学習を通して、自他の心身や命を大切にする意識を高めることができた。</p>	

	【成果指標】 ・いじめ早期発見のための気づきリスト回収率 90%以上 ・「不安感や困り感を先生に相談できる」と回答する児童生徒 70%以上	・いじめ早期発見のための気づきリスト回収率 90% ・「不安感や困り感を先生に相談できる」と回答した児童生徒 90% (児童生徒アンケートによる)	
3 交流及び共同学習	○地域の小学校・中学校・高等学校の児童生徒との交流を通して、経験を深め、社会性を養い、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会を設定する。 (1) 居住地校交流、学校間交流 【活動指標】 ・各学部、学校間交流の取り組み ・居住地校交流希望者に対して、年間2回以上実施 【成果指標】 ・学校間交流 各学部での実施率 100%	地域の小学校・中学校・高等学校との交流を行い、同年代の児童生徒との関わりを通して経験を深め、社会性を育むことができた。居住地校交流については希望者の93%に対して年間2回以上実施し、7%についても年間1回の交流を行った。 ・学校間交流 各学部での実施率 100%	◎
改善課題			
・校外学習や実習、児童生徒会活動、ICT活用などの取り組みは一定の成果はあったが、これらの経験を日常生活場面へより確実に結び付けていくために、学習内容を般化する方法や自己表現の機会を増やす取り組みを設定していく。 ・日常的な関わりの中で小さな変化を継続的に把握し、早期支援につなげるためには、教職員間の情報共有と、組織的な対応、関係機関との連携体制をさらに強化していく。 ・地域社会で生きていくために必要な社会性の育成や相互理解をより深めていくため、交流及び共同学習の質の向上と事前・事後指導の一層の充実を図っていく。			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 教員の専門性の向上	○障がいの多様化に対応できるような授業力や知識、ICT機器活用スキルの向上を目指す。 (1) 障がいの多様化、ICT機器活用に向けた教育環境の整備 【活動指標】 ・一人一台情報端末やパソコン室の整備 ・ICT活用に関する情報共有 年間5回以上 (2) 専門性の向上を目指した多様な研修会 【活動指標】 ・進路研修会 ・公開講座 ・施設見学会 ・医療的ケア緊急時対応研修、訓練 ・てんかん発作時の対応研修、訓練 (3) 人権感覚あふれる学校づくり 【活動指標】 ・卒業後を見据え自己肯定感を高めるための	授業でのICT活用に向けて情報端末の管理・整備を行い、教員のスキル向上のため、活用方法等について、年間5回以上の情報共有を行った。 専門性の向上を目指した研修会として、進路研修では特例子会社を見学し障がい者の就労に対する理解を深め、公開講座では書字に関する研修を受講し指導力を高めた。さらに、就労選択支援研修を通して新たな福祉サービスへの理解を深めるとともに、医療的ケア緊急時対応研修・訓練および、てんかん発作時の対応研修・訓練を実施し、緊急	

	<p>(2) 校内の支援体制および福祉との連携の充実</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援会議 ・ 関係者会議 ・ 地域連携会議 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 欠席日数 30 日以上の児童生徒に関する支援会議開催率 100% 	<p>催し、小学部・中学部・高等部 1 年生と小学部 4 年生全員を対象に個別の教育支援計画を用いて、地域連携会議を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 欠席日数 30 日以上の児童生徒に関する校内支援会議開催率 100% 	
<p>4 働きやすい職場づくり</p>	<p>○働き方改革につながるよう、各部・各分掌で業務内容や体制を見直し、教職員一人ひとりが持てる力を発揮しやすい環境をつくり、チーム稲葉の組織力を高める。</p> <p>○ICT の有効活用と業務の思い切った見直しを進めることにより、学校の働き方改革を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%以上 ・ 計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・ 放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 80%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人当たりの月平均時間外労働時間 10 時間以下 ・ 時間外労働が月 45 時間を超える延べ人数 0 人 ・ 時間外労働が年 360 時間を超える人数 0 人 ・ 一人当たりの年間休暇取得日数 4 月～12 月 10 日以上 	<p>各学部や分掌で業務内容や体制を見直したことで、教職員が働きやすい環境づくりが少し進み、チームとしての意識も少し向上した。また、ICT を活用した業務改善を進めたことで、会議の効率化や時間外労働の削減など、働き方改革の成果が表れてきている。これらの取り組みにより、教職員が力を発揮しやすい職場づくりが着実に進んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定した日の定時に退校できた教職員の割合 78% ・ 計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・ 放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 92% ・ 一人当たりの月平均時間外労働時間 4 月 8.7 時間、5 月～12 月はそれ以下 ・ 時間外労働が月 45 時間を超える延べ人数 1 人 (12 月現在) ・ 時間外労働が年 360 時間を超える人数 0 人 (12 月現在) ・ 一人当たり 10.9 日の年休取得 (12 月現在) 	<p>※</p>
<p>改善課題</p>			
<p>・障がいの多様化や医療的ケアへの対応など、専門性を日常の授業や支援に確実に反映させるための体制整備について、一層の充実を図る。</p> <p>・安心・安全な学校づくりに関する取り組みについて、日常の安全確保や危機対応にどのように生かしていくのか、引き続き検証と改善を行う。</p> <p>・障がいのある児童生徒の人権を守るための取り組みについて、幅広い視点から継続的に強化し、組織的な実践力の向上に向けて取り組む。</p>			

・校外の支援体制について、情報共有の仕組みや体制、個々の児童生徒の課題に応じた支援の質を高めるために、地域や関係機関との連携の深まりや支援内容の一層の充実を図る。

・業務見直しや ICT 活用により働き方改革は進展しているものの、業務量の負担の偏りは依然として改善の余地がある。また、会議の効率化や休暇取得の取り組みについて、全教職員が安定して働きやすさを実感できる体制づくりに取り組んでいく。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流及び共同学習について、活動の目的や支援のポイントを明確化し、教育内容や児童生徒の実態を共有する事前研修を実施してほしい。また、双方の学校で共通の視点をもって活動を進められるよう体制を整えていけるとよい。 ・防災・安全対策について、教職員間で共通理解を深める研修を実施し、実践的な訓練を一層充実させてほしい。また、近隣の学校や地域との連携を強化するとよい。 ・今後も、長期欠席の兆候を早期に把握し、クラス・学年・養護教諭などが連携して支援方針を検討する校内体制を更に整えてほしい。また、必要な児童生徒については、関係機関との連携をより強化するとよい。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習・各種実習・児童生徒会活動・ICT 活用等で得た経験を日常生活と結び付けるため、教員間で指導の進め方を整理して共有し、実践する。 ・児童生徒の自己肯定感の涵養につなげるべく、自分の思いや考えを表現できる場を増やし、学びを振り返る機会を充実させる。 ・児童生徒の小さな変化を見逃さず、早期支援につなげるための情報共有と組織的な対応を強化する。 ・社会性の育成と相互理解を深めるため、交流及び共同学習の質を高め、事前・事後学習や教員の事前研修を充実させる。また、学校間で共通の視点で取り組めるよう、連携体制を整える。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいの多様化や医療的ケアに対応できるよう、教員の専門性を高め、授業・支援に反映させる体制を整備する。 ・障がいのある児童生徒の人権を大切にする取り組みを継続的に強化し、組織としての実践力を高める。 ・安心・安全な学校づくりに向け、日常の安全確保や緊急対応の取り組みを検証・改善し、防災・安全研修や実際の場面を想定した訓練を充実させる。また、地域や近隣校との連携を強化し、学校全体の安全体制を高める。 ・校外の支援体制を見直し、情報共有の仕組みや関係機関との連携を強化して支援の質を向上させる。また、長期欠席の兆候を早期に把握し、支援方針を検討する体制を整え、必要に応じて関係機関との連携を強化する。 ・業務見直しや ICT 活用を進め、業務量の偏りを改善し、会議の効率化や休暇取得の促進により働きやすい環境を整える。